

## 報 告

## 日韓リハビリテーション工学協会協力協定締結報告

### Report of Memorandum of Agreement (MOA) between RESJA and RESKO

RESJA 国際担当理事 大鍋 寿一  
(新潟医療大学名誉教授)  
(ピッツバーグ大学客員教授)

#### 1. はじめに

日本リハビリテーション工学協会 (RESJA: Rehabilitation Society of Japan) は 1986 年 3 月に北米リハビリテーション工学協会 (RESNA)、欧州リハビリテーション工学協会 (AAATE)、豪州リハビリテーション工学協会 (ARATA) と協力協定 (MOA: Memorandum of Agreement)―徳島アグリーメント<sup>1),2)</sup>―を結んでいました。

韓国は 2007 年に韓国リハビリテーション工学協会 (RESKO: Rehabilitation Engineering and Assistive Technology Society of Korea) を設立、第 1 回韓国リハ工学カンファレンス<sup>3)</sup> が釜山で開催されました。RESKO はこの時より日本をはじめとする他工学協会と連携を模索していました。このたび日韓の連携を促進するため 2011 年 11 月 4 日韓国テグ大学で開催された第 6 回韓国リハビリテーション工学カンファレンス時、徳島アグリーメントに沿って、RESJA と RESKO の協力協定を結びました。

リハビリテーションと支援工学・技術の分野で今後は日韓の交流のみならずアジア地域における国際ネットワークの絆を一層強いものとするのが期待できます。

#### 2. 経緯

RESKO は第 1 回韓国リハ工学カンファレンス<sup>2)</sup> が釜山で開催され時から日本をはじめとする他工学協会と連携を模索していましたが、前 RESJA 理事長松尾氏 (佐賀大学) と前 RESKO 会長の HONG 氏 (仁荷大学校・東明大学校) との間で、まず RESJA と RESKO 間で協力協定を結ぼうとの話がでたのを契機としてス

タートしました。本 MOA は大阪での第 26 回リハ工学カンファレンス時 RESKO 国際担当理事 Moon 氏 (Dong-eui University) および RESNA 前会長の Cooper 氏 (University of Pittsburgh)、大鍋との会議、および RESJA 会長相良氏 (神戸芸術工科大学)、Moon 氏、大鍋との会議がもてたことで大きく推進できました。

#### 3. 日韓協力協定

2011 年 11 月 4 日、韓国 Gyoungsan にある Daegu Univ. (大邱大学) で開催された第 6 回韓国リハ工学カンファレンスで日韓協力協定は徳島アグリーメントを基本に結ばれました。以下は英文ならびにその日本語訳です。

#### Memorandum of Agreement

In recognition of the potential benefits of collaboration with the membership organisations that promote the field of rehabilitation and assistive technology, RESJA and RESKO agree to pursue opportunities that will provide value to their members as well as strengthen the international network. The intent of this agreement is to promote communication, and information exchange. The organisations consider each other as being “sister organisations”, being not competing, respecting the different characteristics by culture, political environment, membership, mission statement and situation of people with disabilities in both countries.

The proposed activities are, but not limited to:

RESJA

〒359-1141 埼玉県所沢市小手指町 3-13, M204(自宅)

#### Reciprocal Membership Benefits:

1. Each organisation will provide two free membership for each sister organisation including all benefits and privileges to a person / place designated by the respective sister organisation.
2. Each organisation will provide reciprocal membership privileges in terms of conference registration fees and for certain publication activities.

#### Annual Conference Benefits:

1. Each organisation will provide free booth space at their conference.
2. Extend an invitation to the conference to two official representative of the organisation and offer free registration to the conference.
3. Promote to host an international meeting within the conference.
4. Advertise and promote each others conferences, including logos, dates and locations in the newsletters, conference proceedings and web as appropriate.

#### Use of Logo:

1. In principle each organisation may use each others logos to support collaboration. Approval to specific activities may be granted on a case by case basis.

#### Web:

1. Each organisation will promote mutual recognition of all organisations, including linkages to all web pages as appropriate. A common text might be used for that by all organisations put on a prominent place in the websites.

#### Calendar of events:

1. Each organisation will include announcements of events such as meetings of international relevance in the newsletter and web.

#### International journal:

1. The organisations continue to consider to optimize the international publication practice of articles for their members. They will consider the needs of the different membership and existing Journals. The idea of a joint international journal will be explored and discussed further.

#### Collaboration:

1. The organizations continue to consider the collaboration with other organizations in Asia, Tokushima Agreement group and concertation meeting group.

November 4, 2011

President of RESJA

相良氏サイン

President of RESKO

Min 氏サイン

#### 日本語訳

リハビリテーションと支援工学・技術の分野を促進する会員組織間の連携により考えられる利益を認識し、RESJA と RESKO は、国際ネットワークの絆を一層強いものとするのと同様に、それぞれの会員に価値を提供するであろうきっかけを作ることに同意する。この同意の意図は、コミュニケーションの促進、情報の交換である。それぞれの組織は、「姉妹組織」であり、張り合うことなく、文化や政治的な環境、会員、組織の声明文 (mission statement)、障害を有する人々の両国における立場などにより異なる特長があること尊重することに配慮する。

提案された活動は以下の通り、ただし制限されるものではない:

#### 相互の会員の利益

1. 今後、それぞれの組織は、対象となる姉妹組織により計画される人・場所に対する全ての利益や権利を含み、それぞれの姉妹組織に対して会費無料の二人の会員を用意する。
2. 今後、それぞれの組織は、カンファレンスの登録費用や特定の出版事業に対して、相互の会員に

権利を提供する。

#### 年次カンファレンスの利益

1. 今後、それぞれの組織は、それぞれのカンファレンスにおいて無料のブースを用意する。
2. 組織の二人の公的な代表者に対してカンファレンスへの招待状を出し、カンファレンスに無料で登録する。
3. 主催者に、カンファレンス中に国際会議を（開催するように）奨励する。
4. ニュースレター、カンファレンス論文集と適当な web に、ロゴ、日時と場所を掲載し、それぞれ、他のカンファレンスの宣伝と奨励を行う。

#### ロゴの使用

原則的に、それぞれの組織は、連携を支えるために、それぞれ、他のロゴを使用しても良い。特別な活動については、ケース・バイ・ケースで承認するものとする。

#### Web

1. 今後、それぞれの組織は、全ての組織の相互認識を促進する。それには、適切な全 web 頁へのリンクを張ることを含む。全ての組織で、共通に利用しても良いテキストを各 web サイトのよく分かるページに掲載する。

#### 行事の日程表

1. 今後、それぞれの組織は、ニュースレターや web に、国際関係会議のような行事のアナウンスを含める。

#### 国際雑誌

1. それぞれの組織は、それぞれの会員に対して、論文等の国際出版物の活動を最適化することを継続して考える。今後、それぞれは、異なる会員のニーズについては、可能性を探り、今後話し合う。

#### 国際協力

1. それぞれの組織は、アジアにおける他の組織、徳島アグリーメントグループや連携会議グループとの協力を考える。

2011 年 11 月 04 日 署名

RESJA 会長

相良氏署名

RESKO 会長

Min 氏署名

徳島アグリーメントと違うところは、「組織の一人の公的な代表者に対してカンファレンスへの招待状」のところをより交流を促進するため、韓国の強い希望により「二人」となっているところです。

#### 4. 期待

徳島アグリーメントは我々の諸先輩の努力により 1986 年に結ばれました。その後 RESJA のリハ工学カンファレンスで国際セッションを設け、努力を続けて来ました。1 例として第 23 回リハ工学カンファレンス in 新潟 (23rd JCAART 2008, Niigata) では英語論文集をハードカバー本<sup>4)</sup>ならびに Online<sup>5)</sup>でも初めて出版しました。

さらに徳島アグリーメントを発展させるものとして、徳島アグリーメント・グループの中で RESNA 等は地域（北米大陸やヨーロッパ）であるのに対し、RESJA だけが日本一国であり、しかも極東 (Far East) にあることからよほど魅力ある国際セッションを組まないとヨーロッパ等から来にくいとの話がでています。一方アジアでは、2012 年度もタイとシンガポールが共同で、日本のリハ工学カンファレンスに相当する国際会議 (i-CREATE: International Convention on Rehabilitation Engineering & Assistive Technology<sup>6)</sup>) を積極的に開催しています。また RESNA には ATP (Assistive Technology Practitioner)、ATS (Assistive Technology Supplier)、RET (Rehabilitation Engineering Technologist) などの認定資格 (Credentials) が設定されていますが米国外ではカナダと香港が多い状況です<sup>7)</sup>。また現在では、香港も台湾も徳島アグリーメント・グループへ入ることを希望しているとのことです<sup>8)</sup>。

そうした中で徳島アグリーメントに沿って、日韓の協力協定が締結できたことはリハビリテーションと支援工学・技術の分野で今後の日韓の交流のみならず「アジア地域」における国際ネットワークの絆を築き、一層強いものとして行くことが期待できます。これを通して超高齢社会の先頭を走っている日本は、グローバルに世界の障害者・高齢者へも貢献できると考えられます。

2011年6月9日国連において「障害に関する世界レポート」<sup>9)</sup>が発表になったその年にアジアにおいて連携のきっかけができたことは意義があります。

日本がガラパゴス化しないためにも今後一層の努力が求められております。

図1、図2は調印式後の記念写真です。



図1 調印式後の記念写真：左は RESJA 相良会長代理の大鍋、右は RESKO 会長 Min 氏



図2 調印式後の記念写真：前列左から RESKO 国際担当理事 Moon 氏、大鍋、前 RESKO 会長 Hong 氏、前 RESJA 理事長松尾氏および RESKO 会長 Min 氏。日韓の RESKO カンファレンス参加者代表

## 謝 辞

本協力協定は大阪での第26回リハ工学カンファレンス時会議を持つことで大きく推進できました。努力された RESKO 国際担当理事 Moon 氏および RESJA 会長相良氏に感謝します。カンファレンス出席の RESNA 前会長 Cooper 氏には推進に向け協力して頂きました。またそのような機会をつくられた第26回リハ工学カンファレンス実行委員長古井氏に感謝します。締結式が予定されていた第6回 RESKO カンファレンスに間に合うよう努力された RESJA および RESKO 各理事会に感謝します。

## 【参考文献】

- 1) <http://www.resja.or.jp/eng/agreement-e.html>
- 2) 翻訳版、RESJA 事務局保管
- 3) 大鍋・古井・田中、第1回韓国リハ工学カンファレンス出席報告、リハビリテーション・エンジニアリング、Vol. 23, No. 1 (2008), pp.54, 55.
- 4) H. Ohnabe, M. Kubo, D. M. Collins and R. A. Cooper edit., “SELECTED PAPERS FROM THE JAPANESE CONFERENCE ON THE ADVANCEMENT OF ASSISTIVE AND REHABILITATION TECHNOLOGY 23rd JCAART 2008, Niigata”, IOS Press, 2011. (ハードカバー本)
- 5) <http://www.booksonline.iospress.nl/Content/View.aspx?piid=19770> (Online 出版本)
- 6) iCREATE, <http://www.icreateasia.org/>
- 7) 大鍋、リハ工学カンファレンスの情報共有へ割、リハビリテーション・エンジニアリング、Vol. 23 特集 D1 (2008)
- 8) 2012 CSUN Conference - International Conference Organizers Meeting (2012, 3, 2), <http://www.csun.edu/cod>
- 9) [http://www.who.int/disabilities/world\\_report/2011/en/index.html](http://www.who.int/disabilities/world_report/2011/en/index.html) (WHO のウェブサイト)